

キャベツ黒腐病について

原因

病原:細菌

Xanthomonas campestris sp. *campestris*
(ザントモナス キャンペストリス)

病原菌は乾燥に極めて強く、土壌中で生存し、アブラナ科作物のほぼ全般に感染します。感染経路は、病原菌が根の傷口から侵入、または雨滴によって跳ね上げられた病原菌が葉の傷口や水孔から侵入したことが考えられます。罹病部の病原菌は風雨によって飛散し二次感染源となります。



症状

幼苗期から結球期に至るまで生育期間全般で発生が起こります。



被害圃場の様子

発病が激しいと根や茎の地際の維管束にも黒変が見られる。

幼苗期

子葉に発生した場合は先端の凹んだ部分から発生が始まり、子葉が急速に萎縮し枯死。

本圃において

- ・下葉の葉縁の水孔部から黄化
- ↓
- ・葉縁からV字型に広がる病斑を形成し病斑内の葉脈は褐色～紫褐色に変色
- ↓
- ・病斑は古くなると乾燥して破れが生じやがて枯死する

対策

- ・アブラナ科作物の連作を避ける。
- ・虫害の食害痕が感染経路になるため、キスジノミハムシ、コオロギ、鱗翅目害虫など食葉性害虫の防除を徹底する。
- ・風雨の後、特に台風や大雨の後には発生が増加するので、キャベツ黒腐病に登録のある殺菌剤を早めに散布して予防に努める。